

# テーマ 4: 移動する境界線と市民権 解答解説

## 模範解答(設問別・3 パターン)

### 問 1(180 字以内)

- **解答 A(制度重視):** 戦後、旧植民地出身者の国籍喪失を判断する基準として戸籍が用いられ、日本国籍を基準とした「国籍条項」によって公権力の行使や社会から彼らを排除する仕組みが維持されたためである。戸籍が誰が国民か否かを定義する排他的な境界線として機能し、制度的に「日本人」と「他者」を厳格に峻別し、特定の属性を持つ人々を社会の枠組みから外に置く役割を果たしたからである。
- **解答 B(歴史重視):** かつて「臣民」として同化されていた旧植民地出身者が、戦後の国籍喪失において「戸籍」という身分制度によって選別・排斥されたからである。戸籍が国民と非国民を分かつ不可視の国境として機能し、日本国籍保有者のみを「日本人」とする画一的な国民概念を支えた。これにより、長年日本に居住する人々であっても、戸籍の有無によって権利や帰属から排除される排他性が生じたのである。
- **解答 C(簡潔型):** 日本では戸籍が国民定義の基準とされ、戦後の国籍喪失において旧植民地出身者を切り捨てる装置として機能したためである。戸籍の原理が「国籍条項」と結びつことで、日本国籍を持たない人々を社会保障や任用から制度的に遠ざける排他的な構造が形成された。これが、血縁や戸籍による「純粋な日本人」という閉鎖的な国民意識を強化し、他者を拒む一因となったからである。

### 問 2(200 字以内)

- **解答 A(標準):** 日本は島国であり移民を受け入れてきた歴史がないという、単一民族的で閉鎖的な自己認識のことである。これが形成された理由は、戦前・戦後の人流管理において戸籍が日本人と外国人を厳格に差異化し、特定の正義や「常識」を共有する価値の体系として国家を捉えてきたからである。また、戦後の冷戦下で大規模な人口移動や旧植民地出身者の存在が忘却され、「正常」な国民国家への回帰という物語が優先されたことも一因である。
- **解答 B(理論重視):** 日本が欧米のような移民国家ではないという、純粋で均質な「価値の体系」としての認識である。形成の背景には、戸籍による国民の選別という「力の体系」の働きがあり、それが「日本人=戸籍保有者」という排他的な価値観を内面化させたことが挙げられる。さらに、経済的利益や安全保障を優先する過程で、複雑な移動の歴史や内なる他者の存在を「境界線」の外側へ追いやり、自らを単純化して捉えてきたためである。
- **解答 C(簡潔型):** 歴史的に移民が存在しないとする、静態的で排他的な自己像である。形成の要因は、戦後に戸籍制度を用いて旧植民地出身者を外国人として制度的に切り離し、国民の範囲を狭く限定したことにある。また、戦時中の強制的な移動や残留者の経験を、国民国家形成の物語の中で「異常」として忘却し、内なる多様性を直視してこなかった「知的な怠惰」が、こうした単純で強固な自画像を社会に定着させる結果となった。

### 問 3(600 字以内)

現代において「日本人」の自画像を再構築するためには、国家を固定的な「価値の体系」と見なす従来の視点を脱し、歴史的な人流の連續性の中で「内なる他者」との遭遇を直視する複眼的な視点が必要である。

具体的な事例として、かつてのニュータウンや団地において外国籍住民が増加し、多文化共生が試行錯誤されている現状が挙げられる。これを単なる「治安」や「環境」の問題として捉えるのは、国家を「力の体系」や「利益の体系」のみで測る単純な態度である。重要なのは、そこに住む人々が持つ異なる「常識」や正義を、日本の社会構造の一部として認め、対話を通じて自らの「価値の体系」を更新していく姿勢だ。

歴史を振り返れば、日本は常に状況に応じて移民を受け入れ、送り出してきた。サハリン残留朝鮮人や中国残留邦人のように、制度の「境界線」から取りこぼされた人々の存在を、自分たちとは無関係な例外と見なすのではなく、自らの自画像を描くための不可欠な鏡として捉え直すべきである。

自画像の再構築とは、戸籍という制度的な境界線によって守られた「純粹性」を疑い、移動や離散といったダイナミックな歴史を国民概念の中に取り込む知的労働である。他者との遭遇を、自己を脅かす脅威ではなく、自己の輪郭を知り、広げていく機会として捉えること。この視点こそが、眞の意味での「共生」への第一歩となると私は考える。

### 採点のポイント・解説

1. 問 1: 戸籍が「国籍喪失の判定基準」となり、「国籍条項」を通じて制度的排除を生んだ論理を説明できているか。
2. 問 2: 「島国・非移民国家」という自画像の内容と、制度的差異化・歴史の忘却という形成理由に言及できているか。
3. 問 3: 「自画像=他者との関係で描く鏡」という比喩を理解し、自身の境界線を再定義する姿勢を論じているか。